

＜横浜市立横浜商業高等学校 中期学校経営方針＞

中期計画期間	令和 8 年 4 月～令和10年 3 月
学校教育目標	本校は学則に則り、後期中等教育及びビジネス教育・国際理解教育を行い、他を尊重し自立精神を持つ個を育み、将来の社会人としてビジネス社会を理解し、問題解決能力と国際的視野を持つ豊かな人間を育てることを目標とする。
中期目標	・ 責任あるエージェンシー（主体性）の育成：行事や校則改善など学校運営の様々な場面で生徒の参画を進める。単なる要望の反映に留まらず、合意形成の過程や責任の範囲を明確にする仕組みを整え、自らの判断を主体的に行動する力を育む。 ・ 教育DXによる学習デザインの高度化：生成AI等のICTツールを、校内の活用ルールに基づき技術的・倫理的理解に基づき適切に活用する。AI等の活用により個別最適な学びと協働的な学びを組み合わせることで、生徒の思考力や創造性を引き出すことで、全ての生徒の可能性を広げる。 ・ 地域社会・ビジネス界との共創とブランド確立：3学科の専門性を活かした学科横断的探究を深化させ、学校運営協議会を中心に助言を得ながら産学官連携を推進する。成功事例のみならず試行錯誤の過程も透明性を意識して発信し、信頼される学校としての学校ブランドと信頼を確立する。
目標設定の理由	・ デジタル化が加速する中、教育DXを通じて情報活用能力を磨き、不確実な未来を主体的に切り拓く力を育む必然性が高まっている。 ・ 市立高校の再構築が進む状況下で、生徒主体の教育成果を多角的に発信し、独自のブランド力と競争力を確立する必要がある。 ・ 校務DXで時間的・心理的な余裕を生み出し、その余白を生徒一人ひとりと丁寧に向き合う教育的伴走支援に充て、質の高い教育活動を継続する。
第 5 期横浜市教育振興基本計画重点目標「未来を切り拓く高校教育の進化」	
重点取組項目	取組目標
特色ある高校教育の充実	学科の強みを融合した横断的探究を高度化する。AI等の教育DXを効果的に活用し、地域や産業界と共創するビジネス教育を推進する。（横断的な探究の時間の満足度 90%以上）
グローバル教育・サイエンス教育の推進	AI 等を活用し国内外の視点を生かした国際交流プログラムや姉妹校交流を活性化する。データサイエンスを駆使した情報活用能力を備えたビジネスリーダーを育成する。（グローバルな視点への関心向上 80%以上）
一人ひとりを大切にする高校教育の実現	生徒支援専任教諭を核にSCやSSWと連携した組織的な支援体制を構築する。デジタル技術を適切に活用してSOSを早期察知し、不登校や特別支援への合理的配慮を徹底する。（組織的な生徒理解の満足度 95%以上）
人材育成の取組目標	
・ 組織力と専門性の向上：ミドルリーダーの学校運営参画を強化するとともに、教職員の大学や企業等における外部研修を校内実践に生かし専門性の向上を図る。 ・ 校内DX支援体制の確立：メンター制度等を活用し、教職員間でICT活用スキルを学び合い高め合う風土を醸成する。 ・ ウェルビーイングの実現：徹底した校務DXにより業務を効率化し、創出した余白を生徒への教育的伴走支援と教職員の主体的な働き方を支える心身の健康保持に充てる。	

中期学校経営方針における13の取組分野

取組分野		取組目標
1	教育目標等の設定・実施	スクール・ミッションを共有し教育を充実させる。生徒会等の多様な生徒の声を踏まえ教育目標の見直しを図る。生徒自らが目標達成に挑戦できる環境を整え、主体的・自律的な学校文化の醸成を図る。
2	組織運営 (働き方改革) 教職員研修	ミドルリーダーの経営参画を強化し、校務DXによるデータの一元管理と効率化を進める。創出した時間的余白を生徒への伴走支援に充て、組織としての教育力と教職員のウェルビーイングの向上を図る。
3	教育課程	3学科の専門性を活かした学科横断的探究を体系的に深化させる。生徒の授業評価や学習ニーズを踏まえ、教育課程の改善に生かす。自らの学びを自ら創り出すエージェンシーの育成を強力に推進する。
4	教科指導	ICTを活用した主体的・対話的で深い学びを推進する。学習状況を一覧で確認できる仕組みを用いて習熟度を把握し、個別最適な指導を行う。AI等の先端技術を適切に活用する情報活用能力を養う。
5	特別活動 部活動	行事企画等において、生徒が主体的に参画し意見をまとめる過程を重視する。生徒の声を学校運営の具体的な改善に繋げ、誰もが安心・安全に継続的に挑戦できる、活気ある学校文化を醸成する。
6	生徒指導 教育相談 (特別支援)	デジタル技術を適切に活用してSOSや心の変化を早期把握し、情報を適切に共有して組織的な個々の状況に応じた合理的配慮を行う。データに踏まえ一人ひとりに寄り添う重層的で組織的な教育的伴走支援を徹底する。
7	キャリア教育 進路指導	社会の変化を理解し、主体的に進路を選択する力を育む。生徒一人ひとりのキャリアイメージや希望をガイダンス計画に反映させ、生徒の希望に応じた進路実現に向けた支援を強化する。自らの人生を主体的に考え、行動できる人材を育成する。
8	保健指導 環境美化	端末を用いた健康観察やデータを参考に、心身の状況に応じたタイムリーな指導を行う。デジタル技術を適切に活用して主体的に健康管理と向き合う力を養い、安心・安全な学校生活の維持向上を図る。
9	学校経理 施設・設備 情報の管理	学校施設の利便性向上や学習環境の整備を推進する。施設設備の見直しや改善に関する生徒の具体的な意見を参考にし、生徒が豊かに学校生活を送れる環境の充実を図る。安全な教育環境の安定運用を行う。
10	保護者・地域等 との連携協力	連絡システムを活用し保護者への説明を丁寧に行いながら利便性を高める。学校運営協議会を核に地域課題に関するデ情報を共有し、産学官連携による共創的教育を推進する。社会に開かれた教育課程を実現する。
11	危機管理	防災体制を定期的に見直し、ICTを活用した緊急連絡体制や非常時を想定した避難状況の把握を強化する。安全点検結果をデジタル化し迅速な改善を行う。データを活用した適切な判断で生徒の安全確保に取り組む。
12	学校に関する 情報公開	Y校ブランドを確立し信頼を高める。広報内容や発信のアイディアに生徒の声を積極的に取り入れ、生徒の活躍や教育成果の内容を精査した上で地域社会へ多角的に発信する。
13	いじめへの対応	いじめ対応情報管理システムを活用し、いじめ防止基本方針に基づく迅速な組織的支援を行う。端末による相談窓口を整備しSOSを受け止める。データの一元管理により組織的な未然防止を徹底する。